＜平成２６年度　内閣府　青年国際交流事業＞

資料1

○日本や各国を代表する青年が、共に国際的課題についてのディスカッション等の活動を行うことを通じ、国際的視野を広げ、国際協調の精神と実践力を向上させ、リーダーを育成することが主たる目的。

・また、日本青年と外国青年が相互理解と友好を深め、生涯にわたる絆を構築。

・参加各国の青年からは、政治指導者を始め各界のリーダーを数多く輩出。
（ニュージーランド元首相（現ＵＮＤＰ総裁）、各国の閣僚・国会議員、大学教授、国際機関幹部、民間企業幹部　等）

・今上陛下の御成婚記念として開始以来、皇室の関わる事業として実施。友好の象徴として諸外国から高い評価。

	経　緯	概　要	備　考
東南アジア青年の船	・日本と東南アジア諸国の共同声明（昭和49年/1974年）に基づき開始 ・日ASEAN特別首脳会議（平成15年/2003年）で事業の支援を採択 ・「東南アジア青年の船」事業40回記念共同声明（平成25年/2013年）	・日本及びASEAN10か国の青年合計約330人が約40日間の航海に参加 ・ASEAN各国のうち４か国に途中寄港	・秋篠宮同妃両殿下御接見 ・総理表敬 等
グローバルユースリーダー育成「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」	・国際社会、地域社会等の両方の場面において活躍しうる人材（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ﾘｰﾀﾞｰ）の育成を目的 ・「世界青年の船」（昭和63年度/1988年度～平成24年度/2012年度）、「ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾘｰﾀﾞｰ育成事業」（平成25年度/2013年度）を発展的に改組	・日本及び世界の海洋国の青年合計約210人が約10日間の航海に参加、国内に寄港 ・日本青年のみ５グループに分かれて各１か国を訪問	・皇太子殿下御接見 ・総理表敬 等
国際青年育成交流	・今上陛下御成婚(昭和34年/1959年)を記念して　開始 ・皇太子殿下の御成婚(平成5年/1993年)を記念して再編	・日本青年合計約50人を3か国（途上国中心）へ18日間派遣 ・世界各国の青年合計約50人を6か国（途上国中心）より18日間招へい	・皇太子同妃両殿下御行啓 等
日本・中国青年親善交流	・日中平和友好条約締結(昭和53年/1978年)を契機に翌年より開始（中華全国青年連合会と共同）	・日本青年30人を中国に12日間派遣 ・中国青年30人を日本に12日間招へい	・中国団長の大臣表敬訪問 等
日本・韓国青年親善交流	・日韓共同声明(昭和59年/1984年)、国交正常化20周年(昭和60年/1985年)を契機に開始(昭和62年/1987年)	・日本青年30人を韓国に15日間派遣 ・韓国青年30人を日本に15日間招へい	
青年社会活動コアリーダー育成プログラム	・高齢・障害・青少年の３分野に係る社会活動の中心的担い手となる青年リーダー育成を目的として開始（平成14年/2002年）	・３分野に従事する日本青年約30人を各分野の先進３か国（英・独等）に10日間派遣 ・同３か国より各分野で活躍する人材約40人を日本に15日間招へい	